

穂積皇子に勅して近江の志賀の山寺に遣はしし時に、但馬皇女の作りませる御歌一首					
遺居而	戀管不有者	追及武	道之阿廻尔	標結吾勢	英文はマクミラン (2019)による 万葉集 卷二 115 但馬皇女
後れ居て	恋ひつつあらずは	追ひ及かむ	道の阿廻に	標結へわが背	
おくれゐて	こひつつあらずは	おひしかむ	みちのくまみに	しめゆへわがせ	
Rather than being left here pining I will surely try to follow you, so please leave marks for me at every turn of the road to block me from following you.					
異説 都に残って恋焦がれたりなんかせず、あなたを追いかけていこう。 でも、それはだめ。 道の曲がり角ごとに標縄を結って(結界を張って)、その先は行けないようにしてくださいませ、道祖神様。 但馬の揺れる心が切ない説である。ただ、この異説では、末尾の『わが背』が説明できない。『わが背』は通常、愛するお方を意味するが、上の異説では『わが背＝道祖神』となり、異例。 では、通説では、この歌はどう訳すのか。					
通説 都に残って恋焦がれたりなんかせず、あなたを追いかけていこう。 道の曲がり角ごとに、標を結んでください、あなた。(それを目印に、必ず行きますから。)					

【文献】

ピーター・J・マクミラン(2019): 英語で味わう万葉集, 文春新書 1245 (マクミランは異説で訳していることに注意)